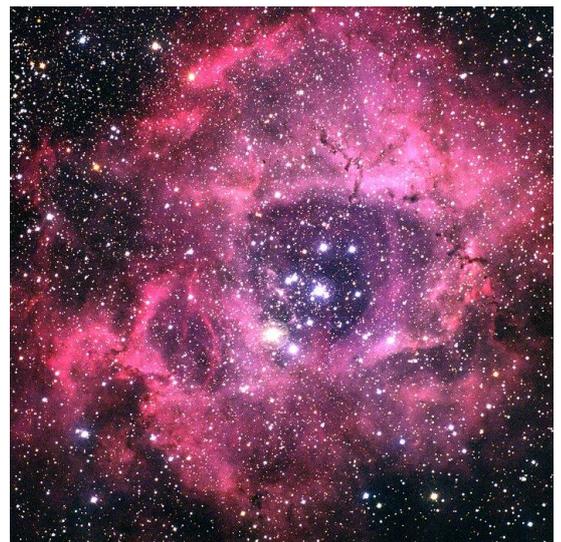




## 冬の夜空の至宝「バラ星雲」

プラネタリウムの冬の星空解説の定番に、3つの一等星（シリウス、プロキオン、ベテルギウス）が作る「冬の大三角」があります。それぞれ、おおいぬ座、こいぬ座、オリオン座に位置し、これらの星座の紹介もセットです。しかし、冬の大三角の中にある「いっかくじゅう座」を紹介することはあまりありません。それは、この星座に明るい星が少ないためなのですが、「いっかくじゅう座」は有名な星座です。それは、今では有名な「バラ（薔薇）星雲」があるからです。



バラ星雲 1997年9月キットピークで撮影

Credit: N.A.Sharp/NOIRLab/NSF/AURA

この星雲は昔から知られていたわけではありません。ここに散開星団があることは17世紀から分かっていきましたが、星雲そのものは、人の目では大きな望遠鏡を使ってもほとんど見えないのです。1890年代、この星雲の明るいところだけを見たバーナードは、ここにリング状の星雲があるとし、「バーナードのリング星雲」と呼ばれるようになりました。1899年、ロバーツという天文学者が、露出時間2時間45分もかけて写真を撮り、バラの花を上から見たような星雲の全貌を明らかにしました。しかし、この星雲が「バラ星雲」(Rosetta Nebula)と呼ばれるようになったのは1950年代も半ばになってからのことです。

この星雲が出す光の波長(656nm)は、目に見える光(可視)と赤外の間付近にあり、肉眼ではほとんど見えません。ところが、カラー写真では、あざやかな赤に写ります。そのことでバラの花らしさがいっそう際立ち、有名になりました。この星雲は水素の巨大な雲で、中には新しい星が次々に生まれる星の「ゆりかご」でもあります。

2021年1月23日 (解説員: 田部 一志)